



上手な野菜の育て方

さつまいも



1 栽培時期と品種

△ 植え付け ■ 収穫

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	品種
露地栽培					△△△△△	△△△△△	△△△△△	△△△△△	△△△△△	■	■	■	鳴門金時

2 栽培上の注意点

◆日が良く当たる通気性に富んだ乾燥した土を好み、また肥沃だとツルばかり伸びて生育が悪くなる(“つるぼけ”になる)ので痩せた土地がむいている。

3 畝づくり

◆植え付け10日ほど前に土をよく耕し、幅約45cmくらいの畝を作り、水はけと通気性を良くするため高さ20~30cmの高畝にする。
◆畝間に水たまりができないよう排水にも気を付ける。
※さつまいもは収穫まで長期間になるので雑草を防ぐためマルチの利用をおすすめします。

4 肥料

◆さつまいもは、空気中の窒素を固定する微生物が共生していて、自ら栄養分を作り出すため、肥料が多いと“つるぼけ”になる為、施さないで育てる。

5 植え付け

◆株間30cmでマルチに穴を開け、深さ10cm位の楕円形の穴を掘る。
◆植え穴の底に寝かせるように苗を置いたら、土をかけて鎮圧をする。この時塊根の基となる不定根がよく出るように3~4節が土に埋まるように、棒などを斜めに入れて使用し植え付けする。

6 収穫

◆植え付け後110~120日くらいで収穫できる。
◆掘った芋を乾かすため晴れた日の午前中に収穫をする。
◆霜にあたると収穫した芋の保存性が悪くなるため、霜が降りるまでに収穫する。

害虫

ケラ・ネキリムシ・コガネムシ類の発生があるかも知れないので植え付け前に全面土壌混和か作条土壌混和をし防除する。

ダイアジノン粒剤5/10aに4~6kg

総使用回数1回(植え付け前に!)

参考

- 窒素成分が多すぎると“つるぼけ”になる。
- ツルが茂ってきたらつる返し(つるを浮かせて不定根を切る)をする。
- 水やりは根がつくまででよい。

- 苗の葉が萎れている場合は植え付け前に水に挿して戻しておく。
- 収穫後3~4週間保存するとデンプンが果糖などの糖類に変化して甘くなる。

